

## 産学連携学会全国大会を開催

(社会連携推進センター)

6月25日(木)、26日(金)の両日、本学を会場に産学連携学会第13回大会を開催しました。

産学連携学会は、産学連携学の確立、産学連携従事者の能力向上、地域産学官連携活動の総合的支援等を目的としています。本大会はその主要な活動の1つとして開催されている全国大会で、各省庁をはじめ、北見市や北見工業大学社会連携推進センター推進協議会等、様々な産学官関係諸機関からの支援をいただいていた開催となりました。

今回は、典型的な地方中核都市・北見での大会となることから、全国共通の話題に加え、「地方における大学の活用」をキーワードとして大会を企画・実行しました。大会の実行には本学の教職員はもちろん学生も加わり、心のこもった運営を行いました。

開会式では、大会長である高橋信夫学長による開会宣言、伊藤正実産学連携学会長・群馬大学教授の挨拶に続き、文部科学省の坂本修一産業連携・地域支援課長、経済産業省の宮本岩男大学連携推進室長をはじめご来賓の方々からご挨拶をいただきました。その後、北見市常呂町にある株式会社しんやの新谷有規代表取締役社長から、「ホタテによる日本の牽引を目指して一仲買から養殖、そして加工・販売へー」と題

した特別講演があり、地方から日本を元気にする6次産業の実例を紹介いただきました。

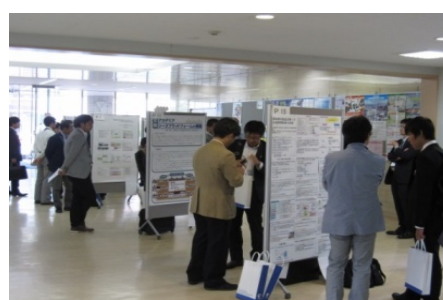
引き続き行われたシンポジウム「産業界から見た地域『産学官連携』」では、本大会の主要な論点について確認する議論が行われ、午後からは各専門セッションでの白熱した議論が始まりました。会場には全国から総勢300人を越える参加者が集い、一般講演セッションで141件、ポスターセッションで16件、オーガナイズドセッションで20件にのぼる発表・議論が行われる盛大な大会となりました。

また、25日の夕刻には200人を越える方が参加し情報交換会が開かれました。北見市留辺薬町の留青(りゅうせい)太鼓の音にのって始まった会では、櫻田真人北見市長と永田正記北見商工会議所会頭から、歓迎・お祝いの言葉をいただきました。学会の表彰式も行われ、本学の内島典子産学官連携コーディネータが、学会広報活動への貢献が認められて功労賞を受賞しました。

産業、大学、官公庁の関係者が北見の地に集い、知の拠点としての活動の重要な手法である産学連携について議論した今大会は、それぞれの立場でその意味を確認し、推進を決意する有意義な場となりました。



一般講演セッションの様子



ポスターセッションの様子